アメリカで感じたことは

昨年の七月二十日から八月十一日まで「秋田県高校生海外研修」が行われました。全県から六十人が参加。大館市内の高校からは五人の生徒が参加しました。一行は、アメリカのミネソタ州を訪れ、英会話の学習や地元高校生との交流などを通じて貴重な体験をしてきたようです。この研修に参加した五人のかたから、研修の感想などを書いてもらっています。その中から二人をご紹介します。

海外研修の感想

大館鳳鳴高校　二年
鈴木　義伸さん

今回の海外研修は三週間という期間で行われました。実際、この三週間はもう少し長くいたいと思いました。ちょうど耳が言葉になれたところで帰国してきたので、もう少し英語を上達させるために一カ月はいたかったと思いました。

僕は国際的視野を広げるという目標を、日本とアメリカの相違点と相似点に置いて、様々なものを見てきました。

アメリカと日本の相違点では、まず気候が異なっていました。気候はちょうど乾いた日本の夏といった感じ、照り付ける太陽は強く、しかし吹き付けている風は心地よく、適度に乾いた気分のいい気候でした。

日本人は、アメリカは大きいとよく言います。確かに大きいものです。アメリカの人々はみな大きく、近くを流れるミシシッピ川は雄大で、自分の視線が果てしなく広がる青空へ開けていきました。もちろん食べ物のサイズも大きいものでした。

アメリカと日本の相似点では、生活習慣がほぼ似ていました。現在の日本人のライフスタイルとの細かな違いはあったけれど、だいたいにおいて同じでした。

食べ物の味付けは確かに濃かったけれど、その点を除けば日本人の口に合うものでした。確かに日本人として、お米は日本の方がおいしいと思いました。

アメリカの道路を歩いていたとき、クラシックカーの走る中、日本のメーカーの車をよく見つけました。その光景は日本の道路と重なって見えました。

普段、何気なく聞く一般論としてのアメリカを、実際に訪れることで理解することができました。

この研修を通じて確実なことは、自分の感じ取れる範囲で十分に視野を広げられたということです。これからの人生においてこの三週間が貴重なものになっていくことでしょう。

▲ 最終日に行われた「お別れパーティー」